根岸 二松軒案
地震之用心
地形
もり土やおき土の上に住む人は地震の時にあぶないと知るべき
建築
細柱尾のやね大かぐらあたま勝なる家ぞあぶなき
火元
火鉢ガスすべて火の元最重にまづさきに消せ地震する時
あるも
平日の用心足らぬあるそ者尾に打され塀に潰さる
津浪
来る時は地震間もなく来るものぞ津浪くとろすそ帰る
震返
ゆり返し本ゆりよりは小さいもの鯰でツかち尻ツ二升あり
逃場
頑丈な長火鉢なとを楯にとれまさかの時も出るまなさる
二階
棟の下に三角の明きあればこそ二階のけがは下よりは無し
薬品
リウサンに塩酸キハツ油なと火を出すものはさぬやう
避難
屋外にさけるに越すはなけれども其の時々の程に従へ
火乃用心
主人
風呂だんろ煙突などの火の元は主人自ら吟味なされよ
風向
考へず無茶に飛出す上々句之風向と地理でなんぎするのは
ポンプ
萬両の神輿を造る金有らば小さいぽんぷを各町におけ
用水
泉水や堀井戸有らば潰さずに永く火防の神と仰がん
提灯
ろうそくにマツチ提灯大風呂敷細引子を入れて長押にかけおけ
生命
昔から生命あつての物だねといふは真実で見限り大切
宝物
ヤレ土蔵ヤレ金庫といふよりも身二の宝は身にあけて出よ
持出
常々よく目につくやうにきめておく非常持出す物は何々
身支度
身支度は左ばかりなるかぎり物手ぬのみ水か氷砂糖か
電線
うろたへて電燈線に引かかり凧のまねして命とらるな
これ用心書を目につく所にはりおき日々用心する方は地しんや火事の災難を免れ玉ふべし
版元
東京市下谷区下根岸町廿五番地
石井方
伊勢辰